

# 野生獣類による被害防除のための適正な個体準管理と 生息環境整備技術に関する基礎調査

平成 12 年度～ 14 年度（国補システム）

佐野 明

## 1 低コスト被害回避法の検討

漁網（商品名：サル通せんぼ）と農業用資材（弾力性支柱：ダンボール）を組み合わせた簡易猿害防止柵を4タイプ試作し（図 - 1）、被害防止効果判定試験を実施した。材料費は660～992円/mであった。

タイプ1は大宮町に設置され、設置166日目以降、頻繁に侵入された。タイプ2は白山町に設置され、接近したサルの群れによって周囲の畑は2度被害を受けたが、柵内への侵入はなかった。タイプ3は名張市に設置された。群れは3度接近したが、住民による積極的な追い払いが行われたため、柵内への侵入はなかった。タイプ4は大内山村に設置されたが、2002年3月末時点で、サルの接近はなかった。

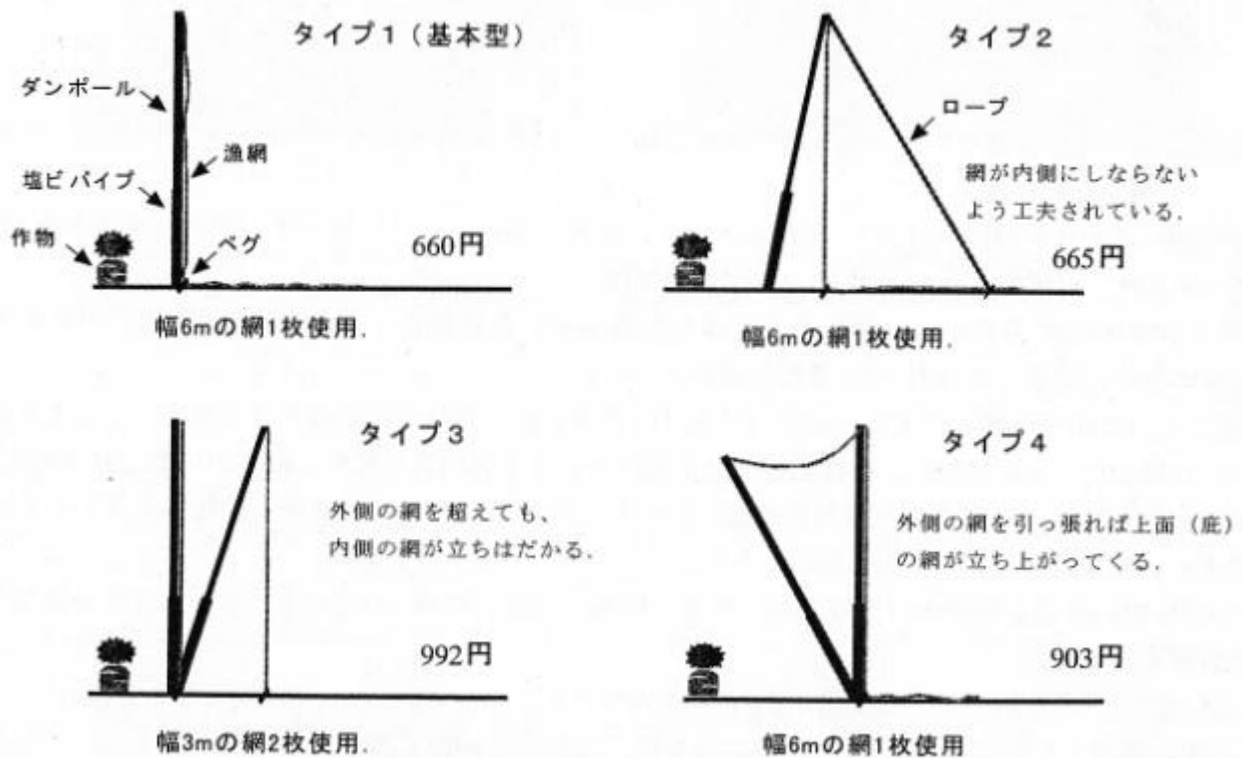


図 - 1. 試作した簡易猿害防止柵の構造と単価  
価格は 1m あたりの材料費．支柱の間隔は 1.6m とした場合．

## 2 サル接近早期探知システムの整備

サル接近早期探知システム（サルの群れのうちの1～2頭に電波発信機を装着し、さらに恒常的に被害を受けている集落に受信機を配備して、サルの接近をいち早く察知し、継続的な追い払いを行うシステム）を導入するため、地域住民に対する普及啓発活動を名張市、上野市および大内山村で行った。